

『一心千里』

走って見れば、
見えてくる

永田 隆一



第123回

「雄介君、最近、囲碁界や将棋界で若手の実力者がたくさん出てきていますね。藤井聡太七段は17歳、囲碁の仲邑すみれプロは10歳だ。その強さの秘訣は、人工知能(AI)との対局練習と報じられている」

「韓国囲碁のトップ棋士李九段が、AIには勝てないと言退を亮表しましたね」。

「コンピュータを活用したマシニング(機械学習)は、統計に基づいた分析をする。だから、人間が学習の方向性をコントロールできて、とても安心なのだ。しかし、ディープラーニ

ング(深層学習)は、人間の脳の動きをまねたアルゴリズムを用いたマシニングの1つなのだが、神経細胞(ニューロン)のネットワークアルゴリズムを使う。多くのデータから注目箇所を独自に推論して、眼の付け所を学習して、結論を推薦する。しかし、偏ったデータや粗悪なデータの場合、推論でもっともらしい物を自分で考え出してしまい、時に突拍子もない結論に至ることがあるぞうだ。将棋や囲碁のAI対局は、これが良い方向に出ているとの指摘もある。今までの定

石は完全無視して、対局を有利に進めるAIデアを生み出す。しかし、この突拍子もない結論は、

現実の空間で情報収集

コンピューターで分析

また進歩上であり、データの選別を注意深く取捨選択して、カットアンドトライを重ねて検証しなければならぬ。したがって、コンピュータを扱う人間も、ディープラーニングしていかねばならないぞうだ」。

「先日、衣料品にRFIDのタグが付いていま

とても人間味に溢れているとも取れる。また、偏った情報で失敗するのも「朱に交われば赤くなる」交連させ、人間の脳に似ているとも取れる」。

「近距離無線通信を用いた自動認識技術は、JR東日本が2010年にSuicaを導入して、交通系で大きく利用され始めた。Suicaは、13・56MHzの高周波(HF)を用いて、10cm程度の近距離で読

て、情報のリライトも可能で、安全性も高い。衣料店で使われているのは880〜980MHzの超高周波(UHF)、30程度は認識できる。しかも、一括で300個のタグを5秒程度で読み取れる。衣料製品在庫管理、建設用テナント、銀行の契約書管理、製菓業のドキュメント管理、図書館で

「10の技術でほとんど便利になっていきますね」「安全でも浅い前進がある。日本の監視カメラが500万台程度あり、監視カメラが発表しているが、新宿歌舞伎町の道路では現在、死角がなくなくなったぞうだ。歌舞伎町内で内偵を続けていた男が、ジュラルミンのかばんを持ってあるビルへ入った後、持っていないかたで緊急出勤、大きな検査実績につながったぞうだ。警視庁では50人で24時間モニターの常時観察体制を敷いている」。

「今日から歌舞伎町で街路樹での小用をやめます」「それがいいが、無理な時はカメラに背を向ければよい」(笑)。

世の中の技術の進歩が広く、そして深くなってきた今日、情報の入手が中長期的にますます重要になってきたと痛感いたします。

企業や個人が激変する市場に受け入れてもらい、サバイバルしていくためには、非連続な技術の探求、非日常な戦略の採用、非経験的な材料・部品の探求などを継続しなければなりません。そのためにも、フィジカルな現実の空間で収集したデータを用い、コンピュータのサイバー空間で高度な分析と予想をシミュレーションして、フィジカル空間へ活用することがカギだと考えます。

フィジカル空間とサイバー空間を行き来するという現象は、人間を寄せに導くのか、そうでないのか、年末年始の休みに考えてみたいと思います。

(毎月連載)